

人はなぜあおり運転をやめられないのか

ここ数年、ニュースであおり運転について取り上げられることが増えてきている。そもそもあおり運転とは、道路を走行する自動車、自動二輪、自転車に対し、周囲の運転者が何らかの原因や目的で運転中におおることによって、道路における交通の危険を生じさせる行為のこと、と定義されている。あおり運転をするだけで、相手に恐怖を感じさせてしまうだけでなく、人の命まで奪ってしまうことになる。誰がどう見ても意味のない行動である「あおり」という行為を人はどうしてやめられないのだろうか。ある事件を題材に分析してみた。

概要は、茨城県内の常磐自動車道で、あおり運転を行った男性が被害男性に暴行し、加害男性の車に同乗していた女性はその様子を撮影した事件だ。この事件は大々的に報道されたため、皆さんの記憶に新しいのではないだろうか。ここで着目したい点は、加害男性がBMWのSUVのような大きな乗用車に乗車していた、ということです。人間は誰しも他人より優位にありたい、という願望を持っている。従って、大きな高級車に乗車していた加害男性は優越感を得て攻撃性が高まったのだと推察される。また、あおり運転は常習性があり、車をあおった時の爽快感やスリル、興奮などが危険運転を行うドライバーが後を絶たない原因だといえる。ある意味、危険運転を行うことで日常のストレスを発散しているともいえる。このことから、あおり運転とは日本のストレス社会が生み出した副産物であるのかもしれない。

一時的な感情に身を任せて他人の命をも奪ってしまう危険のあるあおり運転を、私は許すことはできない。いつ自分が被害者になるか、はたまた加害者になってしまうのか、予測できる人はいない。だからこそ、主体性をもって日頃から情報を収集したり、フラストレーションがたまった時は運転を回避したりするなど、自分自身を上手にコントロールすることが重要である。(6組A)

日本で選挙に行かない人が多い理由

現在の日本は、残念ながら選挙の投票に行かない人が多くいる。その対策として、選挙権が18歳に引き下げられたが、実際に効果を得られたという感触はないように思う。では、この投票率の悪さにはどのような理由があるのだろうか。また、投票率を向上させるためにはどのような手立てが必要なのだろうか。

選挙に行かない理由として、「選挙に興味がない」などの意見があげられると私は考える。まず、「選挙に興味がない」人はマニフェストを読むべきである。しかし興味がないのであれば、マニフェストを手取ることもなければ、読む気にもならないだろう。目に入る場所など視覚で訴えていかなければ興味を持ってもらえない。そこで改善案として提案するのがSNSである。立候補者がSNS上で意見を主張することで多くの人の目に留まり、見る機

会が増えるのではないか。SNS であれば若年層の利用者も多いため、選挙権を引き下げた意味が為されるだろう。公職選挙法によれば、ウェブサイト等を利用する選挙運動を行うことができる。しかし、選挙運動用のインターネット等の有料広告は禁止されている。そのことから、各立候補者の平等性を欠かないように配慮し、中立の立場で立候補者のそれぞれの主張を集約しより明瞭にしたものを、若者の利用率の高い SNS 上に掲載することで興味を持ち、投票へ行くきっかけにつながるのではないだろうかと考える。SNS の構造上では容易であり、もし規制等に引っかかる要素があるのだとすれば改定を検討すべきである。

以上のような対策を講じることができれば、選挙の投票率の上昇が大いに見込めるのではないだろうか。選挙権を持つ国民、住民が選挙を主体的に捉え、被選挙人との相互の協力によってより良い政治が行われるようにしたい。(6組B)